

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01324

研究課題名(和文)古文書資料の言語横断的総合分析に基づくモンゴル帝国の支配システムの解明

研究課題名(英文) Synthetic Research on the Document Sources of the Mongol Empire

研究代表者

松井 太 (MATSUI, Dai)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：10333709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：漢文・ペルシア語編纂史料に基づいて再構築されてきたモンゴル帝国の支配システムに関する従来の知見を、帝国の中核支配層が遺したモンゴル語文書資料によって刷新する、トルコ語・チベット語・ペルシア語・アラビア語などの諸言語の古文書資料によって個別地域の支配システムの実態を剔出し、それらを編纂史料から構築されたモンゴル時代史像に定位する、という2点を核心的な学術的「問い」に設定した。課題開始とほぼ同時に始まった新型コロナウイルスの流行のため、海外渡航による原文書資料調査は大きな制限を被ったものの、中央アジア出土の古代トルコ語・モンゴル語文書史料の分析を中心として、上記の課題をおおむね達成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1980年代以降、日本のモンゴル帝国史学界では漢文・ペルシア語史料の双方を併せて分析する研究手法が確立され、モンゴル帝国のユーラシア統合の実相が実証されてきたが、近年では漢文編纂史料に基づく東方地域、ペルシア語編纂史料に主軸する西方地域という分業体制に回帰しつつある。本研究課題の意義は、古文書資料を軸としてモンゴル帝国支配下の多言語資料をいまいちど総合的に分析し、また言語文献学・歴史学双方の知見を学際的に架橋することを試み、言語・地域分業を超えて総体的な視角からモンゴル支配下のユーラシア世界史の実証研究を進めるための基礎を提供するものである。

研究成果の概要(英文)：Main academic questions are: 1) to renew the knowledge of the rule of the Mongol Empire through Mongolian documentary materials issued by the core of the ruling stratum; and 2) to reveal the actual administration in individual regions through multilingual documents (Turkic, Tibetan, Persian, and Arabic) in the context of the contemporary comparative Mongol history. Due to the outbreak of the global COVID pandemic, which began almost simultaneously with the start of the project, our investigation of the original document sources preserved in the institutes outside Japan were severely restricted. Nevertheless, we were able to largely accomplish the above tasks, mainly through the analysis of Old Turkic and Mongolian documentary sources excavated in Central Asia.

研究分野：アジア史・アフリカ史

キーワード：モンゴル帝国 古文書資料 中央アジア 中国 イラン

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 13～14世紀のモンゴル帝国支配下のユーラシア諸地域の歴史研究は、近代歴史学の成立以来、漢文編纂史料に基づき中国地域の状況を扱う研究（日本・中国）、またはペルシア語編纂史料により西アジアの状況を扱う研究（欧米）、という一種の言語的・地域的・国際的な「分業」により進展してきた。1980年代以降、特に日本の学界では、漢文・ペルシア語史料の双方を併せて分析する研究手法が確立され、モンゴル帝国のユーラシア統合の実相とその歴史的意義が実証されてきた。

(2) モンゴル帝国の中核的支配層は、チンギス=カン王族とその傘下の遊牧モンゴル諸部族により構成された。また帝国の支配下には、漢語・ペルシア語のみならずトルコ語・チベット語・西夏語・アラビア語など多様な言語を用いる人間集団が組み込まれた。モンゴル帝国の行政支配は、モンゴル支配層がモンゴル語で発出した支配意志を、多種多様な言語の併存する被支配地域に貫徹させる過程として把握できる。

(3) モンゴル帝国支配層の意志を直接に反映するモンゴル語の同時代史料としては、西欧に発出された外交国書類やごく少数の出土文書類が知られていた。しかし1990年代以降、特に中国地域で碑刻化されたモンゴル語文書資料（多くは漢語訳と合璧される）の発現が相次ぎ、モンゴルの中国支配体制の解明が格段に進められた。またほぼ同時期に、中国新疆・甘粛・内モンゴさらにはイラン・ロシア・イスラエルなどのユーラシア諸地域に遺存していたモンゴル時代の古文書資料現物の整理・情報公開が進展した。これらの古文書資料は、モンゴル時代の一次史料として発現地域のミクロな歴史像を直截に反映するとともに、漢文・ペルシア語編纂史料の記述の検証を可能にする点で、きわめて高い史料価値を有する。また使用言語にはモンゴル語の他にトルコ語・チベット語・漢語・ペルシア語・西夏語・アラビア語・ロシア語も含まれ、同一地域から複数言語の資料群が発現した例も多く、モンゴル支配下ユーラシア全域で進行したボーダーレス化と、各地域の文化・言語の多元化・重層化を仄示する。

(4) このような学術的背景・史料状況にてらして、本研究課題では、①漢文・ペルシア語編纂史料に基づいて再構されてきたモンゴル帝国の支配システムに関する従来の知見を、帝国の中核支配層が遺したモンゴル語文書資料によって如何に刷新可能か、②諸言語の古文書資料によって個別地域レベルで剔出される支配システムの実態を、編纂史料から構築されたモンゴル時代史像に如何に定位できるか、という2点を核心的な学術的「問い」に設定した。

2. 研究の目的

前項に掲げた学術的「問い」を解明するため、以下のような具体的な研究目標を定めた。

(1) モンゴル時代の古文書資料の“史料化”： 諸言語のモンゴル時代古文書資料群について、原文書調査に基づく文献学的な解読・校訂作業を徹底し、歴史学的分析に利用できるテキストを提出する。

(2) モンゴル命令文の総合分析： モンゴル支配層がモンゴル語（場合によってはトルコ語・チベット語・漢語・ペルシア語）で発した行政命令について、原文書あるいは漢語・ペルシア語典籍史料への翻訳引用という形で遺存するモンゴル命令文を総合的に分析し、広域にわたるモンゴル支配をユーラシア規模で比較検証する。

(3) 古文書資料による諸地域社会史の比較分析： 中国・中央アジア・西アジア発現の古文書資料に基づいて、モンゴル支配下の個別地域の具体相に関する知見が集積されている。本課題では、これらの個別地域に対する分析を深化させるとともに、モンゴル支配という共時的枠組みから比較考察し、モンゴル支配の特質とその意義を解明する。

3. 研究の方法

モンゴル語・トルコ語文書資料を扱う研究代表者と、モンゴル語とともにチベット語・漢語・ペルシア語史料をそれぞれ直接に読解できる研究者により研究組織を構成し、以下(1)～(3)のような方法により研究を展開することを計画した。

(1) 世界各国に所蔵されるモンゴル帝国治下に由来する古文書資料（紙写本・碑刻）を実見調査・収集して、歴史研究が依拠できる正確な校訂テキストを用意する。

(2) 特に、モンゴル皇帝その他の支配層がユーラシア諸地域に発出したモンゴル命令文について、多言語横断的・総合的に比較検討する。

(3) 上記の古文書資料の分析検討に基づいて、モンゴル帝国支配層の宗教（仏教・道教・儒教・イスラーム）教団保護政策、多言語による文書行政システム、諸種の税役制度・社会制度に関し

て比較研究する。

しかし、課題開始直前の2020年初に始まった新型コロナウイルスの全世界的流行のため、4年間の研究期間のうち当初3年間(2020～2022年度)は、申請時点で計画していた海外渡航調査をほぼ全て断念せざるを得なくなった。そのため、この3年間は、各種の出版物に掲載・刊行された写真複製や、各処から収集した画像データ・マイクロフィルム類により古文書資料を分析検討し、各人の分担内容に応じて上記(1)～(3)の諸側面の研究を精緻化することとした。

4. 研究成果

(1) 研究代表者の松井太による主要な成果は以下の通り。

①各種の物資徴発に関わる古代ウイグル語行政命令文書群107通の校訂テキスト資料集を完成させ、英文単著として出版した(Dai MATSUI, *Old Uigur Administrative Orders from Turfan*, Brepols, 2023, ISBN: 978-2-503-60489-3)。同書では、その他の諸種世俗文書や漢文・モンゴル語・ペルシア語史料との比較検討により、13～14世紀のモンゴル時代を中心に、モンゴル支配層の物資徴発に対応する中央アジア=ウイグル社会の実態を再構した。本書は、早速に海外で発表された書評でも、単なる校訂テキスト資料集の水準を超えて年代論や歴史分析を深化させた重要な研究と高く評価された(Rev. by D. Demiryakan, in *Journal of Old Turkic Studies* 8-1, 2024, 197–202)。

②上記英文単著の分析結果を、第三次『岩波講座世界歴史』の第10巻「モンゴル帝国と海域世界：12～14世紀」に寄せた概論でも提示し、中央アジア=トルキスタン史の通時的展開およびモンゴル時代ユーラシア諸地域史の共時性の視点から歴史的に定位した。

③中央アジア出土ウイグル語文献の全般的な史料解題を *Cambridge History of the Mongol Empire* (ed. by M. Biran & H. Kim, Cambridge (UK), 2023) に寄稿し、現段階のモンゴル時代史研究におけるウイグル語古文書資料の重要性を国際学界にも周知した。

④ティムール朝期のパクパ文字モンゴル語・ウイグル文字トルコ語合璧資料を言語横断的に再検討し、ティムール朝支配層の多言語性をモンゴルの文化伝統と関連づけて論じた(『内陸アジア言語の研究』37, 2022)。

⑤中国内モンゴルカラホト遺跡出土のモンゴル語行政文書断片群についても、漢文文書との相互参照を通じてテキスト校訂を精緻化し、モンゴル語文書が漢文に翻訳されて諸種の漢文行政文書に引用される過程を復元しつつ、モンゴル支配層がモンゴル語で発した命令・意志を漢文文書でも忠実に再現するという元朝政権の志向が地方官庁レベルでも貫徹されていることを再確認した(『内陸アジア言語の研究』38, 2023)。

⑥宮紀子『モンゴル時代の「知」の東西』(名古屋大学出版会, 2018)で提示された、モンゴル命令文をはじめとするモンゴル時代の多言語資料の操作・分析に関する諸問題を批評した(『内陸アジア言語の研究』34, 2019; 同35, 2020; 同36, 2021)。

(2) 研究分担者の主な成果は以下の通り。

①中村淳・四日市康博はやはり『岩波講座世界歴史』の第10巻「モンゴル帝国と海域世界：12～14世紀」に寄稿し、中村はチベット語命令文を用いてモンゴル帝国・元廷へのチベット仏教の受容やその帝国仏教界における地位を検討し、四日市は帝国東西発現の文書群の冒頭定型句と捺印様式を比較した。

②船田善之は『岩波講座世界歴史』の第7巻「東アジアの展開：8～14世紀」に寄稿し、中国地域におけるモンゴル支配について、時代的に先行する遼・金と比較しつつ、文書行政の視点にも留意しながら検討した。

③高木小苗はサファヴィー教団旧蔵のペルシア語・モンゴル語命令文書を不動産台帳資料と照合し、同教団の資産拡大の事例を実証的に跡づけた。また、研究協力者の渡部良子およびイラン側の研究者と協力して、アルダビール文書群中のモンゴル時代多言語文書資料に関する高木・渡部・松井・四日市の研究をペルシア語に翻訳し(‘Imād al-Dīn Shaykh al-Hukamāyī, et al. (eds.), *Justarhāyī darbāra-yi sanadshinasī-yi dawra-yi Mughūl*, Tīhrān, 1399/2020), 日本の研究成果をペルシア語文献研究の“本場”であるイランの学界に発信した。

(3) 以上の実績に鑑みて、新型コロナウイルス禍のため研究活動は多大の制限を被ったものの、おおむね所期の成果を提出することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 74
2. 論文標題 Ver, Marton 2019. Old Uyghur Documents Concerning the Postal System of the Mongol Empire [Berliner Turfantexte XLIII].	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae	6. 最初と最後の頁 163 ~ 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1556/062.2021.00008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 18
2. 論文標題 Two Remarks on the Toyoq Caves and Abita Qur "Abita Cave"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 37 ~ 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17816/WMO77308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 -
2. 論文標題 Borun and Borun-luq in the Old Uigur Legal Documents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Besbalikli Singko Seli Tutung anisina Uluslararasi Eski Uyurca Calistayi bildirileri, 4-6 Haziran 2011 Ankara (Ankara: Turk Dili Kurumu)	6. 最初と最後の頁 145-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 -
2. 論文標題 Bir Eski Uyur duvar metnine gore Koco Uyur kralliginda Budist manastirlarin himayesi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Prof. Dr. Ceval Kaya armagani (Ankara: Akcag)	6. 最初と最後の頁 335-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 36
2. 論文標題 宮紀子『モンゴル時代の知の東西』を読む(三)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 69-128
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舩田善之	4. 巻 -
2. 論文標題 元代「四階級制」説のその後:「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 元朝の歴史:モンゴル帝国期の東ユーラシア(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村淳	4. 巻 -
2. 論文標題 南宋最後の皇帝とチベット仏教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 元朝の歴史:モンゴル帝国期の東ユーラシア(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 130-134
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 82-2
2. 論文標題 14世紀の危機:研究の現在:序	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木 小苗、タカギ サナエ、TAKAGI Sanae	4. 巻 1
2. 論文標題 サフィー廟不動産目録に見える最古層物件パルルール村の来歴 廟伝来の14世紀命令書との照合を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究 別冊 (Journal of Asian and African Studies, Supplement)	6. 最初と最後の頁 65~89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳愛峰・陳玉珍・松井太	4. 巻 2020-5
2. 論文標題 大桃兒溝第9窟八十四大成就者圖像補考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 74-1
2. 論文標題 Book Review: VER Marton 2019. Old Uyghur Documents Concerning the Postal System of the Mongol Empire [Berliner Turfantexte XLIII].	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae	6. 最初と最後の頁 163-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1556/062.2021.00008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 35
2. 論文標題 批評：宮紀子『モンゴル時代の知の東西』を読む(二)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 53-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 -
2. 論文標題 Shish muhr-i zahr-i hukm-i Amir Chupan dar sal-i 726 hijri qamari	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MATSUI Dai, WATABE Ryoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Mubaya'a-nama-yi zamini ba zabanha-yi Farsi wa Turki dar sal-i 660 hijri qamari / 1261-62 miladi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 MATSUI Dai, WATABE Ryoko, ONO Hiroshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Hukm-i Turki-Farsi-yi Miranshah-i Timuri dar sal-i 800 hijri qamari / 1398 miladi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	6. 最初と最後の頁 101-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中村淳	4. 巻 96
2. 論文標題 大モンゴル国の成立	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤史学	6. 最初と最後の頁 85-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YOKKAICHI Yasuhiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Chahar muhr ba khatt-i Pagzpa wa 'Arabi bar hukm-i Amir Chupan dar sal-i 726 hijri qamari / 1326 miladi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	6. 最初と最後の頁 57-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 -
2. 論文標題 チングス・カン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 侠の歴史：東洋編（下）	6. 最初と最後の頁 134-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四日市康博	4. 巻 11
2. 論文標題 歴史学におけるフィールドワーク：これまでとこれから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 なじまあ : Accessible Asia	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 TAKAGI Sanae	4. 巻 -
2. 論文標題 Inju dar Iran-i dawra-yi Ilkhani	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	6. 最初と最後の頁 139-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Old Uigur Administrative Orders and Taxation Practice in Turfan
3. 学会等名 Everyday Life on the Silk Road (Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 An Old Uighur Wall Inscription by Discontented Monks of Qoco
3. 学会等名 The Second International Codicological Conference: Oriental Manuscripts: Scriptoria, Monastic Libraries and Book Workshops in the East in the Middle Ages (IOM RAS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Old Uigur Administrative Orders and the Turfan Uigur Society
3. 学会等名 北京大学歴史学系邀請海外專家演講 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 近年における「色目人」研究の展開：「漢人」形成史への展望を兼ねて
3. 学会等名 中国四国歴史学地理学協会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YOKKAICHI Yasuhiro
2. 発表標題 Chinese Ceramic Trade of the Hormuz Merchants in the Thirteenth and Fourteenth Centuries
3. 学会等名 NETWORKS AND TIES OF EXCHANGE: TRADE AND MERCHANTS ACROSS THE PREMODERN MIDDLE EAST (600-1600 CE), Leiden University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 四日市康博
2. 発表標題 海を行き交う人々：海を渡ったイスラーム商人
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム「海と文化遺産：海が繋ぐヒトとモノ」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Graffiti by Old Uigur Pilgrims in Dunhuang and Eastern Eurasia
3. 学会等名 Scratched, Scrawled, Sprayed: Towards a Cross-Cultural Research on Graffiti, Ses-sion 2: Graffitiing in Medieval and Early Modern Cultures (Hamburg University, Hamburg, Germany) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 色目人再論：「元代四階級制」説のその後
3. 学会等名 第75回東洋史学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 'Imad al-Din SHAYKH AL-HUKAMA'I, Ramina RIZWAN, Azada FIKRAZAD, TAKAGI Sanae, WATABE Ryoko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Intisharat-i Duktur Mahmud Afshar	5. 総ページ数 207
3. 書名 Justarha'i darbara-yi sanadshinasi-yi dawra-yi Mughul	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://osaka-u.academia.edu/DaiMATSUI

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	中村 淳 (NAKAMURA Jun) (70306918)	駒澤大学・文学部・教授 (32617)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	舩田 善之 (FUNADA Yoshiyuki) (50404041)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・准教授 (15401)	
研究分担者	四日市 康博 (YOKKAICHI Yasuhiro) (40404082)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究分担者	高木 小苗 (TAKAGI Sanae) (70633361)	島根県立大学・国際関係学部・客員研究員 (25201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	渡部 良子 (WATABE Ryoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関